
家族と闇

和泉由貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家族と闇

【コード】

N6935F

【作者名】

和泉由貴

【あらすじ】

日々の中で生じる苦悩を書いた散文。

(前書き)

決して、読んでいて気持ちの良い物ではありません。衝動で掲載してしまいました。

『赤ん坊』

始まりは些細な事だったと記憶している。

しかし、怒りに灯された火は消える事を知らず、彼は彼の母を殴りつけた。

彼の振るった見えない拳は母を髑り、そうして打ちのめされた母が、言葉を失い黙した後までも、鋭く尖った礫を込めた泥玉を彼はぶつけ続けた。

虐げられた記憶を、嘗て自分に向けられた悪意を笠に着て、人を鞭打つ様は美しいものと思う事など出来る筈もなかった。

このような聞くに耐えない言葉が響くのならいつそ耳が腐り落ちてしまえば良いとさえ思っていた。

だが、それでも私は動くことが出来なかった。

私の足は地面に打ち込められた二本の杭に変わり、そうして、人の傷つく様に薄暗い爽快感が微かにあったのは確かだった。

私もまた、生悪な生き物でしかなかったのだ。

巨大な体を持て余して醜悪な赤ん坊が其処にいた。

私は私に絶望した

『母は、放火しなかった』

私は母が今夜、この家を焼くかもしれない、と思った。

母の人生の喜びを、自由と権利を筆取り杵み続けたこの家を、この血を絶やす事で報復しようとして決行するやもしれなかった。

母は泣いた。笑つような呻き声を立てて涙と鼻水を垂れ流した。

獣の吠えるように母は泣いた。

全身から貫き通せなかった意地の残骸が体液と共に流れ出し、それを止める事さえ叶わなかった。

翌朝、母は姿を失せるかもしれない。

耐えきれない不理解と苦悩の中で母の体は活動を辞めてしまつかもしれない。なかった。

私の体は炭になるのだろうか。母と共に暗い海に沈んでいくのだろうか。

私達は明日を迎えられるのだろうか。

「今」の私には分からなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6935f/>

家族と闇

2011年1月27日05時06分発行